

これまでを振り返って

厚生労働省に入省して今年の4月で丸4年となります。今までの4年間を振り返りながら、これまで取り組んできた業務を紹介しようと思いますので、就職活動をする上での一助となれば幸いです。

これまでの経歴

平成24年に入省して間もなく、年金局数理課に配属されました。数理課では、国家百年の計に立って年金財政の未来を描く「財政検証」に携わりました。財政検証は5年に一度の大きなイベントですが、検証作業の中でデータの分析や資料の作成など数理職員としてのイロハを学ぶことができ、私の公務員人生の原点となったと思います。

年金局で約2年間過ごした後、平成26年7月に統計情報部 雇用・賃金福祉統計課に異動しました。雇用・賃金福祉統計課では、全国の雇用者の平均賃金、平均労働時間、労働者数を集計する「毎月勤労統計調査」の公表業務に携わっています。平均賃金の変化を分析するにあたっては、パートタイム労働者の割合が高まることによる影響や、最低賃金の引上げ等による政策的な要因など、様々な切り口から賃金の増減要因を分析しています。また、毎月勤労統計調査の中でクローズするのではなく、他の調査と比較して入職・離職の状況や雇用者数の推移等が整合的かどうかを検証し、多角的な観点から一貫性のあるストーリーを構築しなければなりません。現在、賃金を始めとした雇用統計は、アベノミクスの成果を測る指標として大変注目されています。賃金に関する話題は与野党の論戦の場でも度々登場していますが、国会の審議等を通じて日本の賃金の実像が正しく伝わるよう、毎月の賃金の動向について納得性のある分かり易い説明が従来以上に求められています。

国会期間中は徹夜での対応が続いたり、ご飯を食べる暇もなく省内外を慌ただしく走り回らなければならないときもあります。大変なときもありますが、民主主義の現場を間近で体験することができるのはこの仕事の大きな魅力だと思います。

最近思うこと

役所で4年間働いて思うのは、「読み書きそろばん」の重要性です。まず、「読み書き」についてですが、公文書を作成する上では特に国語力が求められます。一つの文章を書くにしても、ロジックは破綻していないか、曖昧さを排除した明瞭な文章になっているか、過去の文書や答弁との整合性は保たれているか、公用文のルールに則っているか等、様々な点に留意しつ

つ、誰に見られても恥ずかしくない文章を書き上げる必要があります。次に「そろばん」についてですが、難解な数学はそれ程必要ではなく、エクセル等を用いて算数の延長のような簡単な分析が出来るようになれば十分だと思います。最近の国会では数字や統計に基づいた質疑が多く、数字に対する強さは一つの武器になると思います。そのほか、法律や経済、金融、プログラミングなど、知識はたくさんあった方がいいと思いますが、欲張り過ぎても消化不良になるだけです。その都度、柔軟に身につければいいと思います。配属された部署の業務内容や自分の置かれた立場に応じて、器用に立ち回る能力が一番重要かもしれません。

最後に、就職活動中の皆さまへ

就職活動を含めた人生の全てに対して言えることですが、何か一つを選択するということは、言い換えると、他の全ての選択肢を放棄することであり、それゆえに「選択する」という行為は重く、尊いものだと思います。私の人生の大半は物理や数学の勉強及び研究に捧げられましたが、いくつかの選択を経た現在は厚生労働省で働いています。人生は流動的であり、色々なことを経験する中で、価値観や優先順位は変わっていくものだと思います。物事を判断していく上で、何かしら自分なりの物差しを持ち、満足のいく選択をしていただければ幸いです。その際、判断材料は多に越したことはないのですが、このパンフレットを手にとって厚生労働省に少しでも興味の湧いた方は、ぜひ説明会などに足を運んで話を聞いてみてください。ご健闘をお祈りします！

統計情報部雇用・賃金福祉統計課企画調整係長

大原 智



京都にて。

経歴

- 平成24. 4 厚生労働省入省（年金局数理課）
- 平成26. 7 大臣官房統計情報部雇用・賃金福祉統計課（企画調整係）
- 平成27. 4 現職